

## 1. 授業者より

〈3年生〉

- ・題意を把握するため、問題文を読んで分かっていること・聞かれていることに線を引いて題意を確認してから絵や図に表して考えるようにしているが、図に表すとき、はじめ幹の太い木の絵を描いてしまい、「2mずつはなれて」や「りょうはしの木の間」ということを表しにくかったり、木の高さと勘違いしたりしていた。線分図をかく学習が必要と感じた。また、「はしからはしまで」という押さえ方が足りなかったと反省している。
- ・問題文をきちんと読みとることは苦手だが、題意を把握すると意欲的に考えようとするので、今日の学習では「間の数＝(木の数)－1」の式まで考えられるだろうと予想していた。間の数は木の数より1つ小さいという考えは、図を描いて考える中で分かってきたようだ。

〈4年生〉

- ・本時は面積について学習してきたことをいかして、複合図形の面積を求める学習だった。1学期の角度の学習でも180°に足したり360°から引いたりして求めていたので、複合図形をいくつかの長方形に分けて足す方法は見つけやすいと予想していた。大きな長方形から小さい長方形を引く方法については気づくかどうかと思い、ヒントカードも用意していた。
- ・自分たちで発表を進めていた。3年生についていて4年生の発表を見られなかったもので、一人一人の考えの良さや疑問点をフォローできなかった。ぜひ次時に伝えたい。
- ・学習係を中心に自分たちでまとめさせたいと考えているが、その後の教師のまとめがくどかったのではないかと思う。教師のまとめは必要なかったか。

〈3・4年共通〉

- ・授業の終わりに算数日記の交流をしているが、もっとしっかりした内容を書けるように指導したい。

## 2. 協議

〈3年生〉

- ・一人でがんばっていた。
- ・考えを深め、立式できた。問題文を読み、図をかこうと自分で考えていた。木と木の間の数に目をつけ、間をつかんで立式し、説明を考えることができた。
- ・すう太君の登場でやる気を引き出し、一人だけでなくちがう考えも聞いているのがよかった。
- ・図の描き方を工夫するとよい。線分図をかくとき、全体の長さを先にかき、後で間に線をかいて区切っていくから全体がかけない。ここは指導が必要。問題提起の時、掲示した挿絵の木と木の間が狭かったので「りょうはしの木の間」の意味がはっきりととえられていなかった。もっとすき間をあけた挿し絵を提示すればよかったのでは。
- ・問題を確認するとき、「2mずつ」の「ずつ」という言葉をおさえることが大切。

〈4年生〉

- ・進行の上手さ。学習メニューを前に提示しているので、係がうまく進められていた。時間配分もよかった。
- ・実物投影機が効果的に活用されていた。
- ・ヒントカードの活用。封筒に入れて黒板にはっていて、子どもが自分で学習を進められるようにしていた。別の考えが思い浮かばないとき手助けになるので良い。
- ・ワークシートが使いやすいものになっている。
- ・本時の目標達成。意欲的に工夫して面積を求めようとがんばり、多様な方法(4通り)

で考えが求められ、説明も上手にできていた。まとめる作業で、今日学習したことが再確認（整理）できるので良いと思った。

- ・発表の仕方が早口になる。質問も出なかったが、本当に質問がなかったのだろうか。
- ・面積の基本を押さえる。面積の基本にもどるように、方眼紙を活用すると良い。1 cm<sup>2</sup>に区切っていた子の考えを一番先に取り上げ、面積の概要を捉えさせたかった。
- ・更なる意欲へつなげる。一人でたくさんの方をを考えられるように。それが次への意欲につながる。

### 〈3・4年共通〉

- ・子どもの主体的な学び（算数的活動）が、見られた。
- ・誉め言葉をかけ、一人ひとりの考えを大切にしていた。
- ・同時間接の難しさ。複式のため発表しているときに指導者が支援することが難しい。両学年を同時間接的に見ている時間をとろうとするが、いつもどちらか一方の学年に入ってしまう。また、一人の子（3年生）に関わってしまうと、他の学年に目がいかない。どうすればよいか。

## 3. 今後の課題

- ・「問題をつかむ→調べる・考える→発表・話し合う→まとめる」という学習メニューを毎時間黒板に掲示することで、学習係を中心にみんなで協力して授業を進められるようにしている。3年生は一人学級だが、同じように学習メニューを掲示し声に出して進めるようにしている。係によって進め方の差が大きいので、どの子が係になってもスムーズに進められるように打合せをしたり、授業の組み立てや発問を工夫したりしていきたい。
- ・自分の考えを書くことについて
  - ・図や式はかけても、それを説明する文を書くのを苦手とする子が多いので、「まず、次に」という言葉を入れて考えた順に書いていくよう声をかけたり、なぜそうしたかと問いかけたりして、書くことに慣れさせていきたい。
  - ・題意をとらえにくい子に対しては、もっと具体物を操作させたり、分かっていること・求めることを整理させたりするなどの手立てをさらに考えていきたい。
- ・発表について
  - ・発表ボードに大きく書いたり教材提示装置でノートの図や説明をそのまま大きく映し出したりするなど、課題によって効果的な活用ができるように工夫していきたい。
  - ・発表が早口になり、他の子がその子の考えを理解できていないときがあるので、聞く人のことを考えて発表できるようにさせていきたい。
  - ・自分の考えと比べながら聞けるようになってきた子と、そうでない子がいる。聞ける子は、説明の後質問や付け足しができるが、そうでない子は違う意見でも気づかないままのことがあるので、聞く態度の徹底や聞いた後の意思表示などを促していきたい。
  - ・誰のどの考えからどんな順で取り上げるかなど、発表がいつも同じ順にならないように配慮したい。
- ・両学年を観察しながら的確な声かけや指導ができるように、教師の立ち位置や「必ず入る場面」の設定など、支援の仕方をもっと考えていきたい。
- ・今年度は学習指導要領改訂に伴う移行措置のため、「円と球」「三角形」などの単元を3・4年合同で学習し、一人学級の3年生も自分の考えを聞いてもらったり他の考えに触れたりすることができた。授業の終わりに書く算数日記の交流の他にも、交流の機会を増やせないか考えたい。

3 年 生



4 年 生



協 議 会

